

病防第65号
平成28年8月8日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成28年度病害虫発生予察注意報第1号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

平成28年度病害虫発生予察注意報第1号

農作物名 イチゴ
病害虫名 ハダニ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 育苗期
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠

- (1) 巡回調査における7月の育苗ほの寄生葉率は、18.3%（平成27年6.5%）であり、6月から引き続き平成27年より多い発生であった（図1）。
- (2) 病害虫防除員からの報告によると、7月の発生は平成27年比やや多であった。
- (3) 福岡管区気象台が8月4日に発表した、九州北部地方1か月予報によると、気温は平成27年より高い予想であり、ハダニ類の発生に好適な条件が続くと考えられる。

5 防除対策

ハダニ類の防除の基本は、ハダニ類を本ほに持ち込まないことである。そこで、下記のとおり定植までに重点的な防除対策を実施し、ハダニ類の寄生していない苗を定植する。

(1) 耕種的防除

- 1) ほ場内および周辺の雑草は、発生源となるため除去する。
- 2) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているため、老化葉は積極的に除去する。
- 3) 除草後の雑草や葉かき後の老化葉は、ほ場周辺に放置するとハダニ類がほ場内に再侵入するため、ポリ袋に詰めるなどして持ち出し適切に処分する。
- 4) 切り離れた苗については、葉液がかかりやすいよう、苗の間隔を十分に確保する。

(2) 薬剤防除

- 1) 薬剤防除の際は、事前に不要な葉を除去した後、葉液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。ただし、夏季は葉害が発生しやすいため、ポット内の床土が乾燥している時や日中の散布は避ける。
- 2) ナミハダニの各種殺ダニ剤に対する薬剤感受性が低下しており、その程度は、

薬剤の種類やほ場間で異なる(平成27年8月20日付け平成27年度技術情報第8号参照)。有効な薬剤を効果的に使用するため、栽培期間を通した防除計画を立て、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。また、有効な殺ダニ剤を本ぼ期に温存するため、育苗期には気門封鎖剤を積極的に使用する。

- 3) 気門封鎖剤は、本ぼ期に比べ葉裏に薬剤がかかりやすい育苗期での使用が適している。ただし、気門封鎖剤は、殺ダニ剤に比べ卵に効果が低く残効も無いので、より丁寧に4~7日間隔で4回程度散布する。
- 4) 本ぼにおいて、天敵(チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ)を使用する場合には、天敵への影響が残る期間を考慮し、殺ダニ剤の種類や使用時期に注意する。
- 5) 農薬は、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守して農薬の安全使用に努める。
- 6) 栽培期間を通しての防除の考え方は別紙のとおりである。

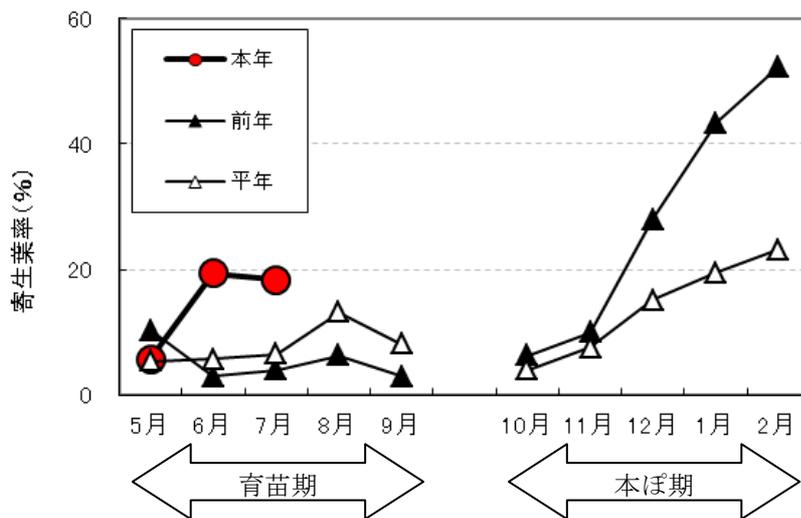


図1 巡回調査におけるハダニ類の寄生葉率の推移



写真1 ナミハダニ

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係)
 担当：児玉、荒木 TEL 096-248-6490

農業を主体とした防除対策

	ステージ	育苗期			本ほ期		
		前期	中期	後期	ビニル被覆前	年内	年明け後
	目安時期	鉢受け～6月上旬	6月中旬～7月下旬	8月上旬～定植	定植～10月	11月～12月	1月～収穫終了
耕種的防除等		<ul style="list-style-type: none"> 育苗ほ作業順序の優先 本ほ残渣の適正処分 ほ場内、周辺の除草 苗間隔広げ（苗切り離した後） 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内、周辺の除草 下葉の除去 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内、周辺の除草 下葉の除去 苗間隔広げ（苗切り離した後） 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内、周辺の除草 下葉の除去 発生箇所の確認・目印付け（収穫や管理作業時） 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内の除草 老化葉の除去 ハダニ類が寄生した葉の除去（施設外で適正に処分する） 発生箇所の確認・目印付け（収穫や管理作業時） 	
農業を主体とした防除		<ul style="list-style-type: none"> 気門封鎖剤を主体に散布（効果の高い殺ダニ剤は極力使わず） 本ほでの防除に用いる 		<ul style="list-style-type: none"> 気門封鎖剤の重点散布（連続4回程度） 	<ul style="list-style-type: none"> 効果の高い殺ダニ剤の散布 気門封鎖剤によるスポット散布 	<ul style="list-style-type: none"> 殺ダニ剤のローテーション散布（事前に不要な葉を除去する） 気門封鎖剤によるスポット散布 	

※気門封鎖剤：4～7日間隔で連続散布を行う。夏季やハダニ類の密度が高い場合は散布間隔を短くする。

天敵（カブリダニ類）を主体とした防除対策

	ステージ	育苗期			本ほ期			
		前期	中期	後期	ビニル被覆前	年内	年明け後	
	目安時期	鉢受け～6月上旬	6月中旬～7月下旬	8月上旬～定植	定植～10月	11月～12月	1月～収穫終了	
耕種的防除等		<ul style="list-style-type: none"> 育苗ほ作業順序の優先 本ほ残渣の適正処分 ほ場内、周辺の除草 苗間隔広げ（苗切り離した後） 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内、周辺の除草 下葉の除去 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内、周辺の除草 下葉の除去 苗間隔広げ（苗切り離した後） 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内、周辺の除草 下葉の除去 発生箇所の確認・目印付け（収穫や管理作業時） 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場内の除草 老化葉の除去 ハダニ類が寄生した葉の除去（施設外で適正に処分する） 発生箇所の確認・目印付け（収穫や管理作業時） 		
天敵を主体とした防除		<ul style="list-style-type: none"> 気門封鎖剤を主体に散布（効果の高い殺ダニ剤は極力使わず） 本ほでの防除に用いる 		<ul style="list-style-type: none"> 気門封鎖剤の重点散布（連続4回程度） 	<ul style="list-style-type: none"> 天敵に影響の少ない殺ダニ剤の散布（事前に不要な葉を除去する） 	<ul style="list-style-type: none"> 天敵放飼 	<ul style="list-style-type: none"> 天敵に影響の少ない殺ダニ剤の散布（事前に不要な葉を除去する） 	
				<ul style="list-style-type: none"> 【ハダニ類がみられる場合】 気門封鎖剤の重点散布（連続4回程度） 殺ダニ剤の散布（天敵への影響日数を考慮する） 	<ul style="list-style-type: none"> 【ハダニ類がみられる場合】 天敵に影響の少ない殺ダニ剤の散布（事前に不要な葉を除去する） 気門封鎖剤によるスポット散布 	<ul style="list-style-type: none"> 【ハダニ類がみられる場合】 天敵に影響の少ない殺ダニ剤の散布（事前に不要な葉を除去する） 天敵放飼 	<ul style="list-style-type: none"> 【ハダニ類がみられる場合】 天敵に影響の少ない殺ダニ剤の散布（事前に不要な葉を除去する） 天敵追加放飼 	
				<p>【多発した場合】 天敵を主体とした防除から農業を主体とした防除に切り替える。 具体的には、効果の高い殺ダニ剤を使用、一旦確実に密度を減らす。その上で殺ダニ剤のローテーション散布を行う（農業を主体とした防除対策参照）。</p>				

※気門封鎖剤：4～7日間隔で連続散布を行う。夏季やハダニ類の密度が高い場合は散布間隔を短くする。